

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	経済学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院)(専門)

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 講義と試験により、成績評価の客観化を促す。	→試験素点数、学部生と院生の成績、修了者の大学教員・研究職・高度専門職への就職者数。	C	C	C	C	
2. 査読つき専門雑誌への投稿促進のため、複数教員による集団指導体制の強化により計画的に研究指導する体制を確保する。	→研究科のディスカッションペーパーへの院生の投稿数、査読つき専門雑誌への院生の投稿論文数。	C	C	C	C	
3. 博士課程後期課程修了時の課程博士授与者を増やす。	→入学後5年間での課程博士号取得者数。	C	C	B	B	
4. 日本学術振興会特別研究員(DC, PD)の申請者を増やし、採用者を毎年1名以上を確保する。	→日本学術振興会特別研究員(DC, PD)の申請者数、採用数。	C	B	B	B	

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	大学院の中核となるコア科目は8単位を必修とし、講義とそれに基づく試験により成績は客観的に評価されている。2013年度より、スタンダードコアとリサーチ・コアに分類した。博士課程前期課程生では11名の修了者のうち進学者4名、留学者1名、就職者2名、資格取得のために勉強1名、就労継続者2名、未決定1名であった。
目標2	博士課程前期課程生によるディスカッションペーパーへの投稿数が3本(専任教員との共著)であった。経済学論究の執筆者はいなかったが、後期課程生の経済学専門誌への投稿は継続されている。
目標3	2012年度に博士課程後期課程を課程修了した者はいなかった。(満期退学者もなし)
目標4	例年と同様の指導であったが、2012年度はDC、PDとも採用者はなかった。
備考	